

あとがき

横浜善光寺留学僧育英会理事 第30回記念交歓会事務局長 安藤 嘉則

本育英会は昭和五十九年に「善光寺海外留学僧派遣育英会」として設立され、平成五年には海外の留学僧の受け入れをふまえて『横浜善光寺留学僧育英会』と改称されました。平成十六年の黒田武志老師の遷化によって三年のブランクが空いたものの、平成二十一年に再開され、本年度で第三〇回の辞令交付式を迎えることができました。

この間、本育英会は多くの国々に日本人留学僧を派遣し、また海外の留学僧を受け入れてまいりました。留学僧は本年の時点で一三〇名を数え、派遣先十四カ国（及び一地域）、受入先十八カ国（及び二地域）となっています。これらの留学僧は曹洞宗の僧侶ばかりではなく、宗派の垣根を越えて多くの僧侶が派遣されてきました。

これだけの国際的な育英会事業を発足させ、これを実際に運営し、これを三〇年以上にもわたり継続させてきた実績は、日本の七万を超えるあまたの寺院の中、まず他に見ることができません。

その後留学僧たちは各地域の寺院で伝道教化に活躍され、また各大学において教育・研究に励んでおります。そこで今回の第三十回目の辞令交付にあたり、改めて思うのは、これまでの派遣留学生たちが異文化の中での修行や研究を通して何を得たのだろうか、それぞれの貴重な留学体験は各人の中でのどのような意味をもっているのか、ということでもあります。

こうしたことから、このたび留学僧の皆様方に呼びかけ、それぞれの留学体験をご執筆いただき一冊にまとめ、この五月二十八日には、善光寺において留学生の集いを開催し、黒田老師への報恩諷経とともに、留学体験を語り合っていたくことを企画させていただきました。

また、この育英会による人材育成事業は善光寺の檀信徒の皆様によって支えてこられました。先代の黒田武志老師はよく檀信徒の皆さんに向けて「毎食一口のご飯を喜捨するおつもりでどうかこの育英会の事業をお助けいただきたい」とよくおっしゃっていました。こうした善光寺を支えてきた方々への報告という意味でも、この三十年以上にわたって行われてきた育英会事業の成果をなんらかの形になればという思いも本書の企画にはございました。

本書に収録された寄稿文を読みますと、亡き黒田武志老師に対する思いやそれぞれの貴重な留学体験が書かれており、本育英会の事業の成果の一端をうかがい知ることができます。

老師の御遺志を黒田博志老師が育英会理事長として確実に受け継ぎ、この育英会が今日まで

継続発展されてきたことを大寂靜中の老師報告申し上げ、ここに本書を老師の御真前に献じる
ものであります。

平成二十九年五月吉日

安藤 嘉則 合掌